

第71回 関東地区高等学校PTA 連合会大会に参加して

PTA 会長 富岡 致知



このたび、関東地区高等学校 PTA 連合会大会埼玉大会に 7 月 11 日・12 日の2日間参加してきました。

記念講演では、芥川龍之介賞受賞作家の九段理江氏による「対話を終わらせないために」というテーマで講演がありました。

分科会では「防災と PTA～地域防災 私たちにできること～」というテーマで大宮武蔵野高校の防災訓練などの発表があり、講義では「災害時、避難所となる学校で起きること」として、元宮城県石巻高等学校校長・防災士の齋藤幸男氏による、東日本大震災発生直後、避難所として地域の人々を受け入れた高校において、生徒たちがどのように自ら考え、行動し、地域を支えていったか、また避難所運営において高校生たちが果たした役割についてのお話をうかがう貴重な機会をいただきました。

震災直後、多くの人が混乱と不安の中にいるなかで、生徒たちは自ら考え、行動し、地域の人々と共に避難所を支えました。炊き出しの手伝い、物資の仕分け、高齢者への声かけや避難所内の清掃など、日常の延長線上にはないはずの行動を、生徒たちは“今、自分たちにできること”を見出し、自然に、そして積極的に実行していたことに心を打たれました。

防災教育や日頃の学校生活の中で育まれていた自立心と協調性が、非常時に発揮されたのだとすれば、学校という場の大切さ、そして大人が子どもを信じるという姿勢の重要性を改めて感じます。

私たちはつい「大人が子どもを導くもの」と思いがちですが、この講義を通して「子どもから学ぶ」という視点の大切さにも気づかされました。生徒たちのひたむきな姿勢、周囲を思いやる力、そして自ら考え動く力は、私たち大人が見習うべき姿である——そう実感させられた講義でした。

今後の PTA 活動においても、子どもたちの声に耳を傾け、彼らの可能性を信じ、共に支え合っていける関係性を築いていきたいと、あらためて感じた大会でした。

